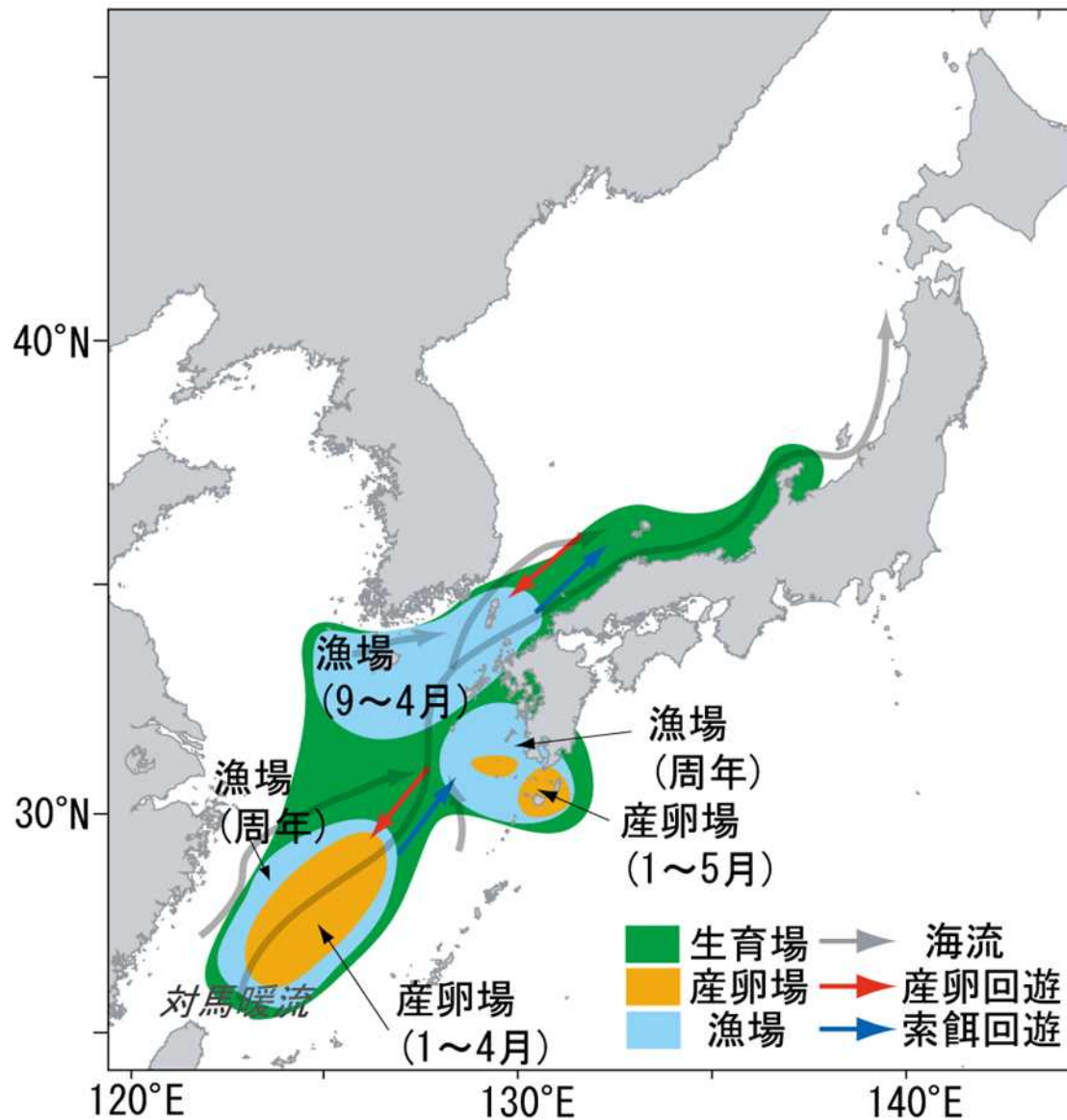




**マサバ ゴマサバ**  
**平成30年度資源評価結果**

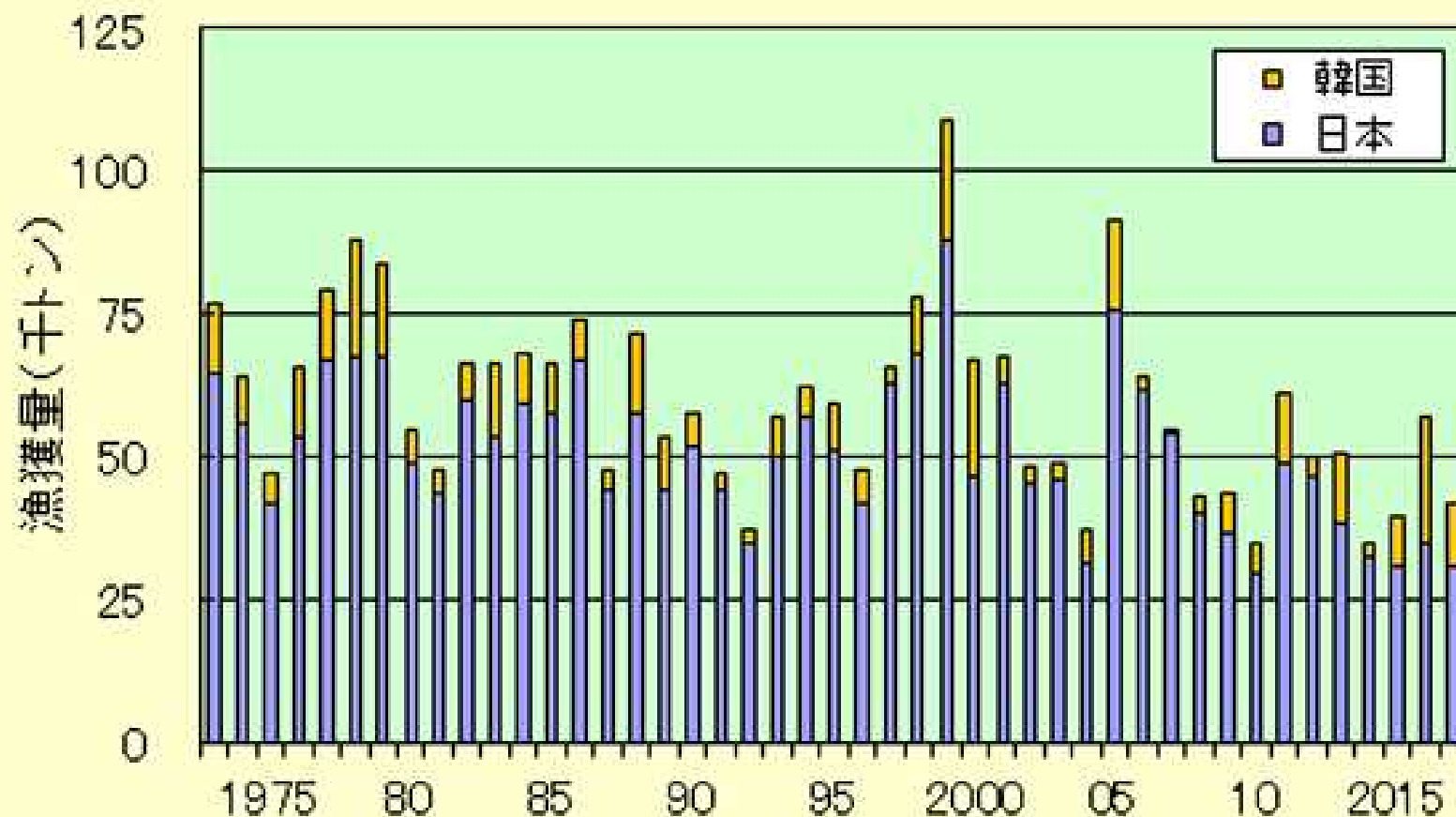
# ゴマサバ東シナ海系群 生物学的特性



## 生物学的特性

- 寿命：6歳程度
- 成熟開始年齢：1歳 (60%)、2歳 (85%)、3歳 (100%)
- 産卵期・産卵場：東シナ海中部・南部～九州南部沿岸 (1～4月)、東シナ海中部～九州西岸 (5月)
- 索餌期・索餌場：東シナ海～日本海西部、春～夏季に索餌のため北上回遊、秋～冬季に越冬・産卵のため南下回遊、マサバよりやや南方域に分布
- 食性：幼魚はイワシ類の稚仔魚や浮遊性の甲殻類など、成魚は動物プランクトンや小型魚類を捕食
- 捕食者：稚幼魚は魚食性の魚類に捕食される

# 漁獲の動向

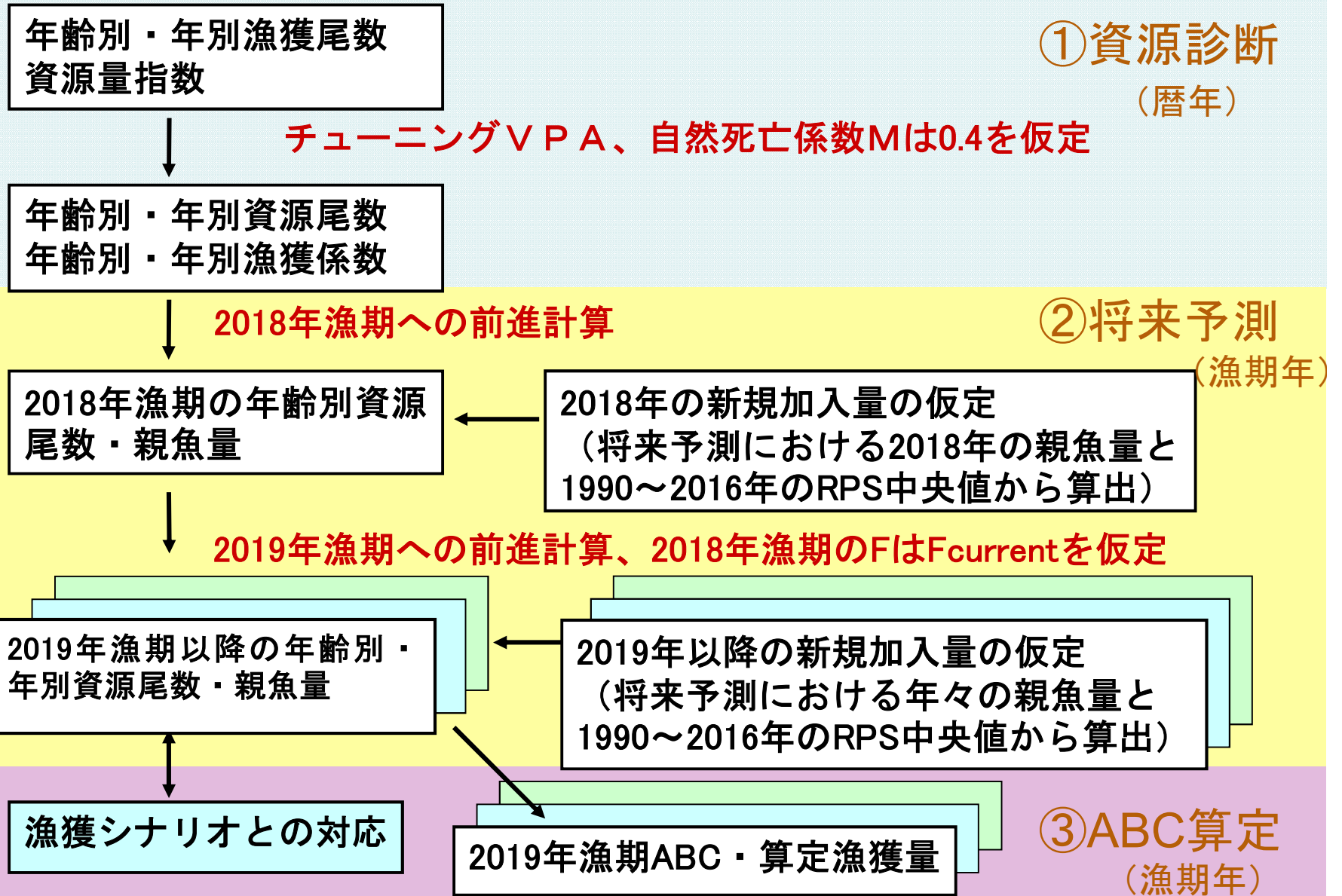


2017年の漁獲量

日本:3.1万トン 韓国:1.1万トン

計:4.2万トン 中国の漁獲は含まない

# 資源評価の流れ



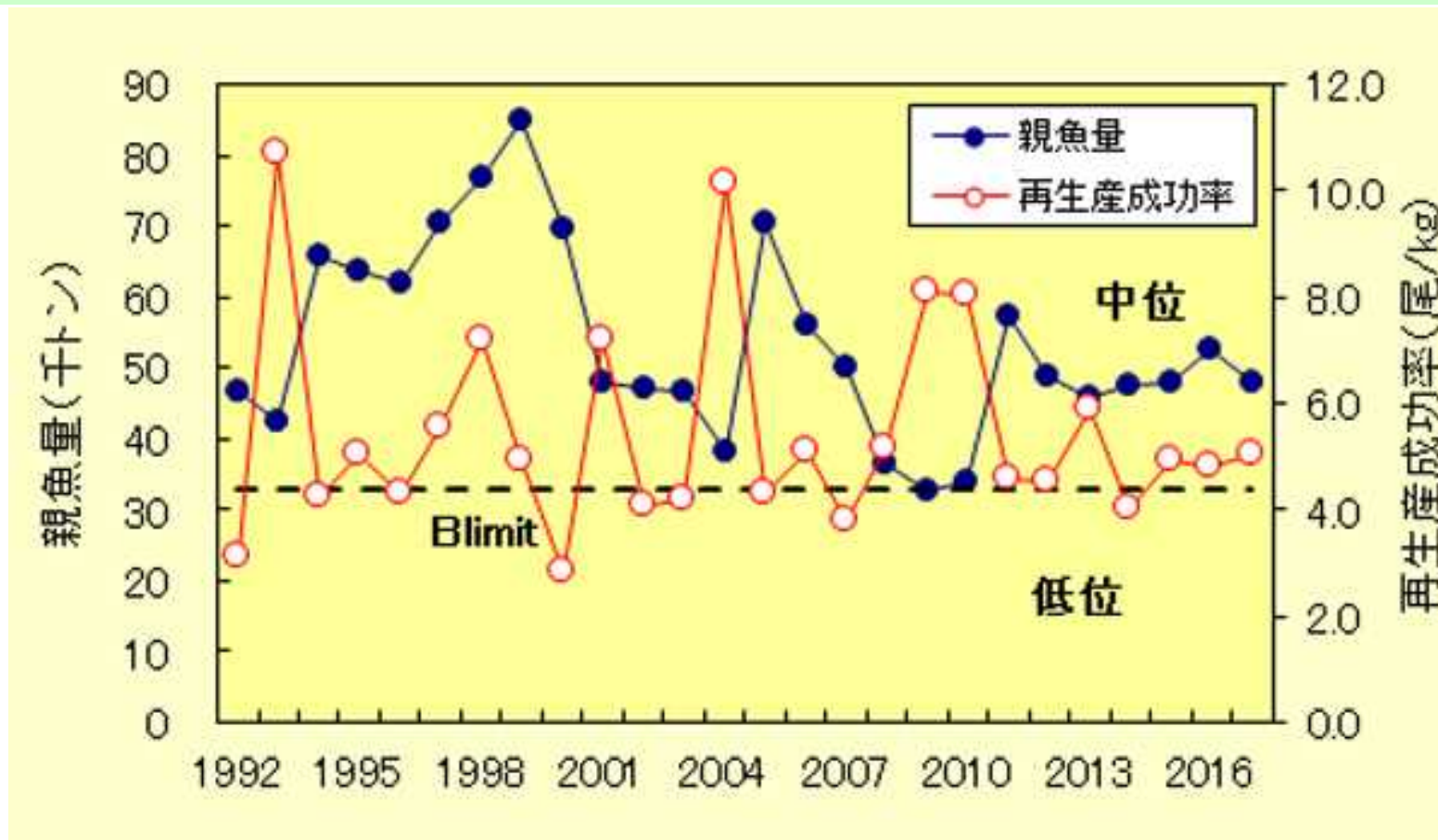
# 資源の動向①



※水準区分 低位／中位: Blimit(親魚量3.3万トン)、2017年の親魚量は4.8万トン  
中位／高位: 過去26年間の資源量の上位1/3

- 資源量: 2017年は11.2万トン
- 資源水準: 「中位」
- 資源動向: 過去5年間の資源量の推移から「横ばい」
- 漁獲割合: 漁獲割合は40%前後で安定、2017年は37%

## 資源の動向②



- 親魚量： 2017年は4.8万トン
- Blimit： 1992年以降の最低水準の親魚量（3.3 万トン）
- 2017年の親魚量は、Blimitを上回る。



# 資源評価のまとめ

- 資源量指標値を考慮したコホート解析により計算した。
- 解析の対象とした1992年以降の資源量は、比較的安定しており、10～20万トンで推移した。2005年に高い値を示した後に緩やかな増減を繰り返し、2017年の資源量は11.2万トンと推定された。
- 2017年の親魚量は4.8万トンでBlimit（3.3万トン）を上回っていることから、資源水準は中位、過去5年間の資源量の推移から動向は横ばいと判断した。

# 2019年ABC表

資源量(2019)=126~136千トンを仮定、親魚量(2017)=48千トン、Blimit=33千トン

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/Limit	2019年 ABC (千トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増 減%)	2024年の親魚量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2024年に 2017年 親魚量を維 持	2024年に Blimitを維持
親魚量の増大 (F30%SPR)	Target	30	22	0.37 (-47%)	171 (105~215)	100	100
	Limit	36	27	0.47 (-33%)	131 (68~173)	99	100
親魚量の維持 (Fmed ≒ Fcurrent)	Target	41	31	0.56 (-20%)	89 (49~134)	91	100
	Limit	47	38	0.70 (±0%)	50 (27~83)	43	78